



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4074 号 2017.12.12 発行

目の当たりにした虐待の現実。駒崎弘樹さんが、特別養子縁組に本気で取り組む理由
一枚の写真に、言葉を失った。 ハフィントンポスト 2017年12月12日

「子どもの虐待を解決する方法として、特別養子縁組がある」

そう考えて、特別養子縁組の事業を立ち上げた男性がいる。社会課題の解決に取り組むNPO法人「フローレンス」代表理事の駒崎弘樹さんだ。

駒崎さんは、病児保育などフローレンスの活動を通して、小さな子どもたちの虐待案件を目にしてきた。ある日、おねしょをした罰として、熱湯をお尻にかけられた3歳の女の子の写真を見て言葉を失った。当時同じ年齢だった自分の娘と重なった。

虐待案件は、児童相談所や役所につなぐなどの支援をしていたが、もっと根本的な解決があるのではないかと悩んだ。

思いついたのが、産んだ親が育てられない赤ちゃん、子どもを欲しいと願う親をつなぐ、特別養子縁組だった。

2016年4月に「赤ちゃん縁組事業」を立ち上げた駒崎さんに、事業の内容や、特別養子縁組が社会にとって大切だと考える理由を聞いた。

■産んでも育てられない人のために

—「赤ちゃん縁組み」は、具体的にどんな活動をしているのですか？

まず産んでも育てられない人のために、相談窓口「にんしんホットライン」を設けています。電話やWebで相談でき、相談員が話を聞きます。LINEの方が話しやすいという人たちも結構多く、LINEでも支援しています。

—どんな方から相談がありますか？

下は中学生から上は40代まで、色々な方から相談があります。中には、「彼氏とセックスしかけて手に精液がついたんですけど、妊娠するのでしょうか？」という相談をしてきた中学生もいます。基本的な知識を教えられていないんですね。きちんとした性教育の必要性を強く感じています。

その他にも、相手の男性が妊娠を伝えた途端にいなくなってしまった貧困世帯のひとり親の方など、本当に様々な相談があります。

—相談してきた人たちに、特別養子縁組を紹介するのですか？

すぐに特別養子縁組を紹介するわけではありません。特別養子縁組が相談者にとって一番良い解決策にならない場合もあるからです。実は、自分で育てたいと思っているかもしれません。そういう方とは、まずは育てる方法を一緒に考えます。

相談者にとって一番良い方法を探った上で、どうしても自分で育てられないという場合は縁組をする、そういった"ソーシャルワーク"こそが特別養子縁組には大切だと思っていますし、それがなければ人身売買と同じになってしまいます。

あっせん件数をただ増やすやり方は、子供のためにも、親のためにもならないと思うので、私たちは養子縁組の件数を増やすことを目標にしています。

また、養親も誰でもいいわけではありません。中には、お金をだせば親になれると思っているような人もいますが、そういった方にはもちろん子供を託せません。

■親になる「条件」

—養親には、どんなことが求められますか？

子どもを育てることに対して、きちんとした覚悟を持っているかどうか。そして子どもの幸せという視点を持ってくれているかどうか、親になる上で大切な基準だと思っています。

例えば「障害があったら返せるんですか？」と聞かれる方もいらっしゃるんですが、それは子どもからの視点ではありません。子どもが障害を持っているかもしれない可能性も含めて、受け止められるか。それを親になる人には求めています。

—特別養子縁組とソーシャルワークは、必ずセットなんですかね。

はい、それは養子縁組をした後もソーシャルワークは必要だと思っています。生みの親の中には、特別養子縁組で赤ちゃんを委託したとしても、本人が抱えてきた問題が解決されない場合もあります。

例えば貧困世帯の方は、委託をした後も貧困状態が変わらない人もいます。その場合は、福祉課と一緒に行って生活保護を申請するというところまでが求められると思います。

また、二人目の妊娠で相談してきた方の話を聞いて、一人目の子が発達障害を持っているとわかったケースもあります。そういう場合は、児童相談所や、発達支援センターにもつなぐ支援をします。

ソーシャルワークには、実親と社会をつなぎ、彼らが抱える問題を解決するところまでが求められると思っています。

一方、育ての親も、親としては一年生なので戸惑われることも色々あります。例えば子供が泣き止まない時に「産みの親じゃないからうまく子育てできないんだらうか」と悩む方もいます。そんな時は、「どんな子供でも泣く」と伝えるなど、子育てに伴走したいと思っています。

■特別養子縁組は増える？

—2018年春に施行予定の「特別養子縁組あっせん法」では、特別養子縁組をする民間団体が「許可制」になり、そのうえで「補助金」が出るようになりますね。この法律で、特別養子縁組をめぐる環境は変わりますか？

答えはイエス&ノーです。

民間支援が0から1になるという意味ではすごく大きい。ただ、国がどの程度支援するかで、あっせん法が本当に実効性を持つかが決まります。

きちんとした児童福祉をするには、人も雇わなければいけないし、それなりのお金がかかります。現在、特別養子縁組にしっかり携わっている団体は約20団体で、一団体につき2、3000万あれば、かなりきちんとした活動ができるようになると思います。それを厚生労働省の担当官にも伝えてきました。

ところが先日、厚生労働省の担当官と面会したところ、考えている予算が桁外れに小さいことがわかりました。

補助金が、総額で年間2800万円くらいになりそうだというのです。団体別に直すと年間140万円です。これでは、きちんとした活動は到底できません。

—どうしてですか。

あっせん法で許可制になるぶん、規制が増えてペーパーワークも増えます。十分な補助金がなければ、事業者は人件費が増えて経済的に困窮させられますし、人手を増やすこともできません。

そうすると、養子縁組団体は立ちいかななくなるか、もしくは養親からの手数料を引き上げざるを得なくなります。

そうするとどうなるか。特別養子縁組が一部の所得の高い人のものになってしまいます。さらに悪いのは、補助金がなければ団体は案件をこなさなければならず、それが不適切な縁組みが増える要因になってしまいます。

先ほどお話したように、実際には、支援をしていくうちに「やっぱり自分で育てたい」

と気持ちが変化するお母さんはいます

ところが手数料のみに頼るとなると、養子縁組をしなければお金にならないので、団体はなにがなんでも特別養子縁組と考えてしまいかねない。はたしてそれでいいのでしょうか。——厚労省は、児童相談所（児相）を中心に、特別養子縁組を進めようとしているのでしょうか？

厚生労働省は、「特別養子縁組は児相がやるから民間は手数料でやればいい」と考えているようですが、児童相談所は虐待の対応でとても忙しく、特別養子縁組をするだけの余裕がありません。だからこそ、僕は民間が頑張らなければいけないと思っています。

特別養子縁組は"子どもの虐待予防"です。子どもを育てられない親の相談にのって支援をすることで、虐待を受ける可能性のある子どもを事前に救います。

児相の"いま虐待を受けている子どもの保護"とは、支援のフローも専門性も違います。

厚労省は8月に出した「社会的養育ビジョン」で、「子供たちの家庭養護を進める」という姿勢を打ち出しました。

家庭養護は、里親と特別養子縁組しかありません。このままだと片方の柱である特別養子縁組が死んでしまいます。そうなるともう、社会的養育ビジョン自体が成り立たなくなってしまう。

このまま特別養子縁組が日本でダメになってしまわないために、政治家にもちゃんと動いてもらいたいと思っています。

■特別養子縁組が普通になるように

——赤ちゃん縁組を始めて1年半ですが、今後取り組みたいことはありますか？

そうですね。養子が当たり前のことと受け止められる社会になり、またどんな境遇にあったとしても、生まれてくる子供たちが養子縁組によって家族と出会える社会になってほしいと思っています。そのために必要なことを事業としてやります。

まだ民間の事業者数も少ないし、それを支えるインフラもありません。だから自分たちでインフラをつくるために活動してきました。

今後、特別養子縁組の制度がしっかり機能するようになったら、さまざまな人が親になれるということを伝える、ソーシャルアクションをしていきたいとも思っています。

今は、児童相談所と民間団体の間にはまだまだ溝があるのですが、本当は、民間と行政でデータベースを共有しながら、ひとりの子供にとって一番いい方法を考えていくのが理想です。今後は、民間と行政が連携するのが当たり前となるようなモデルケースもつくっていききたいです。

「若者の恋愛離れ」を考える 「割に合わない嗜好品に」 吉川啓一郎 中島鉄郎

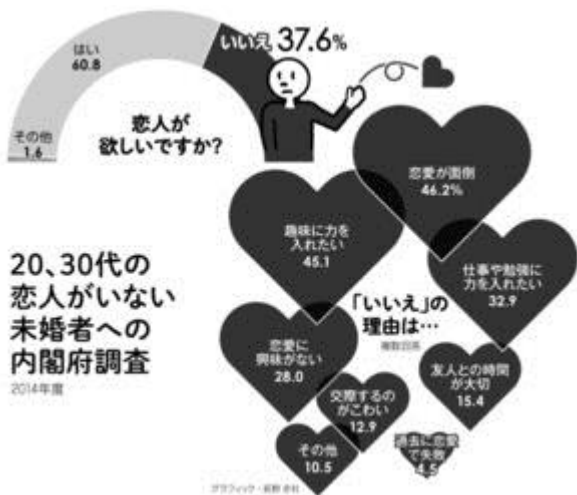
朝日新聞 2017年12月12日

20代、30代の恋人がいない未婚者への内閣府調査

街角にクリスマスソングが流れる季節。かつて、当日、誰と過ごすかで盛り上がったが、いまは若者の恋愛への熱意が薄れてきたという。それって本当なの？

恋しなくてもつながり 牛窪恵さん

若者の恋愛観を、実際に当事者に話



を聞きながら調べ続けてきました。今の20～30代は、恋愛を必需品ではなくて嗜好（しこう）品と捉えており、手間やリスクを考えると割に合わないもの、と考える人が多くなっていると感じます。

21世紀に入り、まず変わったのが男性の恋愛観です。景気低迷と将来不安の高まりから、無用な消費を嫌がり、わざわざ恋をしてお金や時間を使いたくない。初めから男女平等の教育を受けており「男が引っ張る」感覚も弱い。

それでも、少し前まで女性には恋愛願望がみられましたが、最近は男女を問わず「恋愛は面倒」という声が多くなりました。おそらく最大の理由は、常にスマホでネットや人とつながっている「超情報化社会」になったことです。

まず、満たされやすくなっています。私の大学時代は、授業以外はサークルかバイト、あとはデートぐらいしか楽しみがなかった。でも今は無料の動画やゲームも多く、友人とも常時つながっている。恋をしなくても、いくらでも楽しく過ごせます。性愛への関心も、今はスマホで満たせる。困り事も、助けてくれた誰かにときめく前にスマホが解決してしまい、ロマンチックな瞬間が訪れにくい。

職場ではハラスメント扱いされるのが心配で誘いにくいし、やっと告白しても、内容を転送されて恥をかいいたり。付き合えば、行動がスマホ上で筒抜けで束縛されやすく、別れれば、相手のスマホに自分のデータや画像が残っているからストーカーやリベンジボルノも怖い。これだけの面倒やリスクを背負ってまで、特定の人と深い関係になる必然性が薄れているのです。

だから、上の世代は「恋愛しない方がおかしい」と自分たちの感覚で見ず、そうした現代的な難しさを理解した上でサポートする必要があります。当の若者には、パートナーを見つける動物的本能を取り戻すため、時々「スマホ断ち」も大切だと伝えたい。ネットと切れた状態で、「あの人に会いたい」といった自分の自然な感情に、静かに耳を傾ける時間も必要です。

もともと、昔の日本は西欧型の大恋愛ではなく、一緒に暮らしてから情が移っていくタイプの文化でした。 트렌ディードラマが全盛だったバブル前後が、むしろ例外的だったのかもしれない、恋愛より情愛を重視するのは決して悪いことではありません。

ただ、私の経験上も、結婚後に「思っていたのと違う」という瞬間は必ずある。その時、「あれだけ好きになった人だから仕方がない」という割りきりも支えになります。今の若者は賢く先読みしがちですが、人生を納得させるためにも、一度は後先考えずに「燃え上がる恋」をするのも悪くないと思うのですが。（吉川啓一郎）

68年生まれ。出版社勤務を経て、マーケティング会社社長。著書に「恋愛しない若者たち」など。

孤独死ゼロへ合言葉三つ 松戸・常盤平団地地区社協が制定



東京新聞 2017年12月12日
孤独死を防ぐため常盤平団地内に設置された合言葉の看板＝松戸市で

団地の孤独死ゼロに取り組んでいる松戸市の常盤平団地地区社会福祉協議会（大嶋愛子会長）は、孤独死を防ぐ地域の合言葉をつくった。看板を製作して団地内十一カ所に設置、十七日午後一時半から報告会を常盤平市民センターで開いて、住民たちに合言葉の実行を呼び掛ける。

合言葉は「あいさつは幸せづくりの第一歩」「みんなで創（つく）る向こう三軒両隣」「友は宝なり」の三つ。これまでの事例から、独りぼっちで人と話す機会が少ない、他人に関心を持たないなど孤独死をうむ背景が浮かび上がった。このため、お金がかからず、誰でも実践できる孤独死防止の合言葉を考えた。

報告会では、事務局の中沢卓実さんが、それぞれの合言葉の効用などを説明する。また、結城康博・淑徳大教授（社会保障論、社会福祉学）が講演し、孤独死の予防や、発生した後の対応などについて話す。

今後、孤独死防止に向けた団地の取り組み、孤独死予備軍の実態などを報告集にまとめ、国や自治体などに送付し、取り組みの強化を訴える。

中沢さんは「合言葉を実行することで地域力が高まる。孤独死をなくすためキャンペーンを張っていきたい」と話している。

現在、常盤平団地には五千三百五十九世帯、八千人弱が住んでいるという。以前は年間二十人ほどが孤独死していたが、入院してそのまま亡くなるケースが増えたため、現在は十人程度という。（林容史）

働く女性が栄養飢餓状態だって！？



村松あずさ）

1日の食事って、どのくらいのカロリーを意識していますか？

医師や管理栄養士で作る団体「まるのうち保健室」が調査（注1）したところ、働く女性の摂取エネルギーは1日平均1479kcalでした。最初は私もこのくらいかなと思ったのですが、この数字、なんと、食糧難だった終戦直後の摂取カロリーより大幅に低いというのです。調査した団体は

「これでは働く女性は戦後直後よりも栄養飢餓状態にある」と指摘しています。

（注1：調査対象は首都圏で働く20～30代女性749人。「まるのうち保健室」調べ）。

“働く女性 栄養飢餓状態に”

1日の食事って、どのくらいのカロリーを意識していますか？

医師や管理栄養士で作る団体「まるのうち保健室」が調査（注1）したところ、働く女性の摂取エネルギーは1日平均1479kcalでした。最初は私もこのくらいかなと思ったのですが、この数字、なんと、食糧難だった終戦直後の摂取カロリーより大幅に低いというのです。調査した団体は

「これでは働く女性は戦後直後よりも栄養飢餓状態にある」と指摘しています。

NHK ニュース 2017年12月11日
仕事や育児で忙しい皆さん、つい食事が食べられなかったり簡単な食事で済ませたりすること、よくありませんか？ その「つい」が、深刻な栄養不足を引き起こしているかもしれません。働き盛りの女性の栄養状態がなんと終戦直後よりも低下していることが明らかに。将来の出産にも関わるリスクがあることがわかってきました。
（テレビニュース部記者NW9担当



(注1：調査対象は首都圏で働く20～30代女性749人。「まるのうち保健室」調べ)。

1日に必要なカロリーは約2000kcal！

厚生労働省の基準では、女性が1日に必要なエネルギーは20代・30代で約2000kcal。

「意外と多い」と感じる人が多いかもしれません。しかし、デスクワークの人も本当はこのくらい必要だそうです。立ち仕事が多い人だと、約2200kcalにもなります。

丸の内のOLに聞いてみると

約11万人の女性が働く東京・丸の内、どんな食事をしているか聞いてみました。

「仕事で忙しい時は昼食を食べられないこともよくある」「お昼を食べられない時はそのあとおやつを食べる」「朝の時間は支度を優先しているので時間がなくて朝食を食べない」「外食も多いので、なるべくヘルシーな食事を心がけている」

声をかけた人のうち約半数が外食、そのほかは外で買った物を会社で食べるということでした。

その内容を見せてもらうと…。管理栄養士が分析したところ、働く女性が1回の食事に必要とするのは600から700kcal。半数が足りていなかったんです。

忙しくてつい…

栄養不足の原因の1つが「多忙な勤務」です。大手企業に勤める佐々木詩織さん(27)。重要なプロジェクトを任されたため、昼食はいつも仕事をしながら。手軽に食べられるサラダやパンが多くなってしまいます。この日のお昼は約400kcalでした。

「何か胃に入れればいいかなと。お昼時間にミーティングが入ってる時もあるので、その前にぱっと食べたり、終わってずっと会議続いていると、夕方とかになってしまう時もある」わかる、わかります。私も社会人歴10年になりますが20代のころは、忙しくなるとつい「パッとすませなきゃ」と思ったり、朝ぎりぎりまで寝ていたくて朝食を食べなかったりしていました。

カロリー不足の影響 すでに健康面にも…

「まるのうち保健室」の調査では、カロリー不足などによって働く女性の5人に1人は「無



月経」という、3か月以上生理がない状態を経験していたことが判明。さらに400ccの献血ができないほどの貧血状態や慢性疲労を訴える人も約4割いたのです。

まるのうち保健室の監修者、細川モモさんは…

「食事の量も足りなければ、生きていくのに必要なエネルギーや栄養素も足りていない。特に働く女性がここまでの健康問題を抱えているという社会的な認知度は全く進んでいないのではないかと」

管理職になり失ったものは「健康」「食生活」

民間企業が女性管理職に、「管理職になって犠牲にしたもの」を聞いた調査では、1位「趣味の時間」、2位「健康」、3位が「食生活」でした。

この調査、同じ質問を男性に聞くと、1位「配偶者との時間」、2位「趣味の時間」、3位「子どもとの時間」で、男女で大きく差が出る結果でした。

細川さんは、女性自身の意識も影響していると言います。「もともと女性は食わずに痩せられるならそれでいいんじゃないかという誤ったダイエット意識、美容意識があって男性よりも欠食に対する抵抗感がないのはあると思う」

将来の子どもにも影響が？

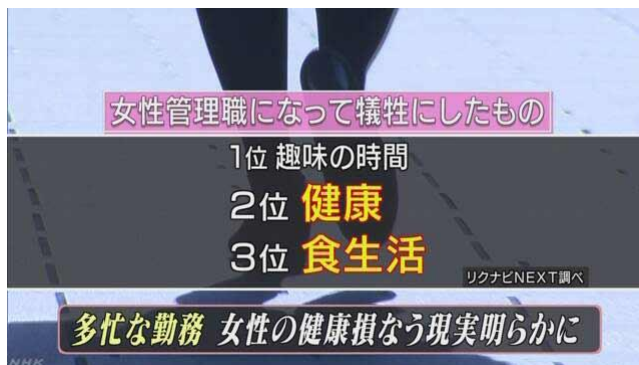
この女性の栄養不足。本人の健康だけでなく、将来にも深刻な影響を及ぼすリスクがあることが最近の研究でわかってきました。

それは、長年、日本で生まれる赤ちゃんの平均体重が減ってきたことです。特に、生まれた時の体重が2500g未満の「低出生体重児」の割合。先進国の中で日本が突出して高くなっています。

早稲田大学の福岡秀興招聘研究員によると、母親の体格や遺伝的なものなど、さまざまな要因が考えられますが、最近、栄養状態との相関関係が指摘されているのです。そして、小さく産まれた赤ちゃんについても。

「小さく産まれるからといって必ず病気になるということではありません。ただ、たくさんの赤ちゃんの研究から将来、糖尿病や高血圧などの生活習慣病のリスクが高くなるのではないかとわかってきた」

では、妊娠したらたくさん食べれば赤ちゃんは大きくなるのかというと、福岡さんは「妊



娠前からの栄養」が大事だと指摘します。

「受精した時点から2週間くらいが赤ちゃんの遺伝子が作られる非常に重要な時期。しかしその時期はまだ妊娠していることに気がつかず、妊娠前の食生活や栄養状態がそのまま影響してしまう。妊娠する前、妊娠した時点、妊娠中の栄養を総合して赤ちゃんの体重は決まるが、中でも妊娠前と妊娠した時点の栄養は特に重要な要素になる」

食事指導で出生体重の改善に取り組む病院も

ほかの病院に先がけて、栄養不足の問題に取り組んできた病院もあります。年間1500人の赤ちゃんが生まれる群馬県の産婦人科館出張佐藤病院です。10年前ほどから病院で産まれる赤ちゃんの体重が減ってきていることに気がつき、妊婦への食事指導に力を入れてきました。

妊娠初期の段階で妊婦全員の食事指導を確認。栄養不足の妊婦には日々の食事メニューを確認して、足りない栄養素を指導したり、仕事で忙しくても簡単に取り入れられるメニューなどをアドバイスします。

頑張るあなた、今から気をつけて
働く女性の中にひそかに広がる栄養不足のリスク。まるのうち保健室の細川さんは、社会全体で向き合う必要を指摘します。

「今は女性が定年まで勤めあげる時代で、男性並みにばりばり働いて結果を残そうと健康を犠牲にしてしま

う。見た目がスリムだからといって健康だという思い違いを社会全体がしてしまうと、女性の抱える潜在的な問題に気が付くことができない」

私には2歳の子どもがいます。食事をおろそかにしてきたからなのかわかりませんが、生まれた時、子どもは小さめでした。同じような後悔をする女性が少しでも減ってほしいと思い、この記事を書きました。そして、健康や自分自身を犠牲にしながら女性の社会進出が進んでいくことがないよう、せつに願っています。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

